

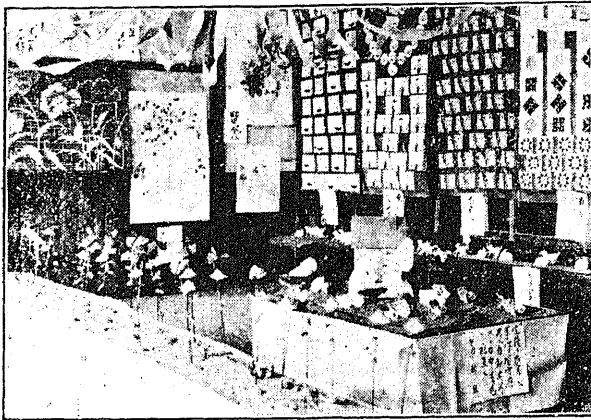
粘土でつくつた木のお皿

四八

及川 ふみ

庭のこぼろぎ、ばつたも大方とりつくしてこの頃は天気さへよければ男兒も女兒もいりまぢつておまゝごと遊びが盛んになりました。

アルミニウムのおまゝごと道具をかつても奇麗なのは一日二日ですぐでこぼこになつたりいびつになつたりだん／＼には數がへつておしまひには何のあとかたもなくなつてしまふ。木製のおまゝごと道具でも特別あつらへの丈夫なもの、外はニウムのと大同小異であるからどこの幼稚園でもそう／＼補つてある



わけてもないから幼兒はあちこちから瓦のかげらや煉瓦のこはれなどをひろひあつめては遊んで居ります。

粘土のお皿もこはれやすいものではあるが容易に幼兒が自ら作つて補つてゆけるし形も割合に美しいので簡單なおまゝごと道具の一部として使ふのには面白いものであります。

先づ粘土を板の上で平くのばして菊の葉（何の葉でもよいのですが）のなるべく大きいものを葉の裏が粘土につく様におく。上から靜かにおさへて菊の

葉の全面が粘土に少しばかりくひ入る様になつたら粘土と葉と一緒にしながら葉の周圍を少しづつもち上げる、これはお皿に物を入れてもころがりおちないためにするのである、これを急に粘土をもちあげると粘土にきり割れが出来るからなるべくしづかにする様に氣をつけねばならぬ。

それから粘土篋で丁寧に菊の葉の輪廓に沿ふて外まわりの粘土をきりおとす、幼児の無器用な手できざ／＼に切りとつた菊の葉のまわりは心ある人が見れば面白いものでせう、今度は葉柄の方をもちあげて靜かに粘土から葉をとりはなします、これで美しい自然の葉脈のきざみこまれた立派なお皿が出来上りました。

この間も私の組の幼児にこころみに作らせましたときには手を拍つてよろこびました、そして次に花壇から自分の好きな葉をもつてきて一生懸命に作り出しました金蓮花、朝顔、ぶどう、ぬかごの葉など色々面白い變つた形の葉をあつめてきていろ／＼變つたお皿が澤山出来ました。

説明は長い様ですが實際はやさしくすぐに出来ます、たゞこれをこしらへる時に、粘土はあまり薄くひきのばしてはいけない、薄くすると板からはなす時に破れてしまふし出来上つて使ふ時にもこわれやすいのですから粘土の厚さを五分位以上にしておく事。木の葉は肉厚なものほどつくりやすい事。葉の周圍のきざみが簡單なものが容易である事。などに注意すればよいのです。なれてくると葡萄や、プラタナス、八つ手などの葉でこしらへるとお菓子皿や灰皿などにもなります。

出来上つた粘土のお皿をよく乾かして焼いてから着色すれば丈夫で美しいのですが手輕には二三日してからエナメルで緑色や黄色や橙黄などに實物に似た色に塗つて數時間もたてばつかへます。

これは幼児がよろこんで作るものですし又一面からは自分たちでこしらへるものですから木の葉などはその季節／＼にふさわしいものが出来て面白いものでせう。